

# みんなで水辺環境づくりワークショップ 活動だより

5

## ワークショップ結果発表会を開催しました

三次市の三川合流部（さんせんごうりゅうぶ）の水辺環境を考えてきた、「みんなで水辺環境づくりワークショップ」検討結果の発表を行う場として11月29日（日）9：30から三次市防災センターで「ワークショップ結果発表会」を開催しました。

「三次・栗屋地区」、「十日市地区」、「八次地区」の3地区に分かれワークショップ参加者の代表の4人が発表しました。

発表では各地区のかわづくりに対する熱い想いが語られ、維持管理などを含め、協働でかわづくりに取組んでいくといった意気込みも伝えていただきました。

また、ワークショップ意見を反映させ作成した「三川合流部周辺河川環境整備計画」の概要が報告され、計画の理念や計画の体系、整備メニュー、重点プロジェクトなどが紹介されました。ワークショップは今回が最終回となりますが、今後ともご協力よろしくお願いたします。ありがとうございました。



三次・栗屋地区の発表様子

【主な発表内容】  
三次市には鶺鴒など四季折々の顔を持ち、歴史的な町並みも残っています。この地域資源を大切にしておかわづくり、まちづくりをしていくと良いのではないのでしょうか。



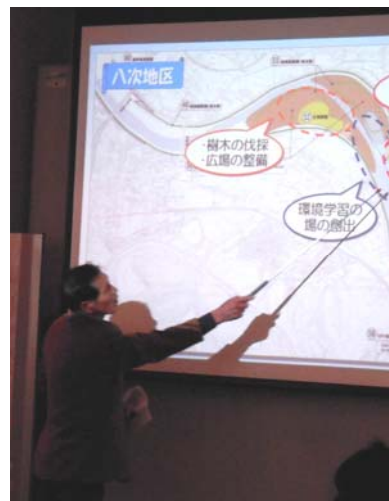
三次・栗屋地区の発表様子

【主な発表内容】  
眼下には三川合流部、遠くを眺めると広がる山並み。これらの美しい景観は三次ならではのでしょう。これを活かすことのできる整備を実現させたい。



十日市地区の発表様子

【主な発表内容】  
十日市地区の北溝川は街中を流れ、市民の最も身近にあります。市民の手で積極的に維持管理をしているので、それを助ける整備を実施して欲しい。



八次市地区の発表様子

【主な発表内容】  
まつりや環境学習に使われている八次グランドですが、浸水する可能性があります。かさ上げするなどして利用しやすくし、同時に環境学習の場として整備して欲しい。

## 様々な方にワークショップや整備計画に対するコメントをいただきました！！



三次市は川と伴に歩んできました。川は自然の恵みであり、田畑を潤し、平時は地域の生活に溶け込みながら、地域の文化を育むものです。

今後の河川環境整備は市民、国、市の三者が対話を図りながら協働で取り組んでいくことが新しい形でしょう。理念に沿って、市民や行政が知恵を出し合いながら計画を実施していきます。

三次市 村井市長



かわづくりに関する様々な情報が集まり、継続的にかわづくりの検討を行う「かわづくりセンター（仮）」は新しい仕組みです。

これから、この仕組みを誰がどのように動かしていくのかが大事になり、そこには市民のみなさんがつくるといふ意気込みやノウハウが必要です。計画策定を期に今後のかわづくりにも協力して欲しいと思います。

広島大学大学院 河原教授



国は安全性を考慮しながら、人と川の関係の再構築に向けて取り組んでいくことを方針として掲げています。

ワークショップでは地域の皆さんの熱意が伝わってきました。今後のかわづくりにおいては、その熱意や計画の理念、基本方針に基づき、関係者と協働で取り組んでいきます。

三次河川国道事務所 西村事務所長



ワークショップでは多くの意見が出され、三次市独自のかわづくりへの楽しめる仕掛け、外の人に自慢できるアイデアなどが抽出されました。

これからのかわづくりにはボランティア精神が必要であり、その精神はかわを愛することや恋することから生まれると思います。今後はそういった人たちをより増やしていくような試みが必要です。

広島国際大学 橋本准教授

### 三川合流部周辺河川環境整備計画について

河川の魅力を最大限に引き出し、自然と触れ合う交流の拠点となるような賑わいのある水辺環境を創出するために計画を策定しました。

市民の皆様のご意向とご協力が何より重要になることから、このワークショップやアンケート調査、学識経験者関係団体による検討委員会を開催し、市民の皆様の「生の声」を生かしました。

計画の全内容については今年度中に三次市ホームページに掲載予定です。



### 照明社会実験について

計画の中で重点プロジェクトとして照明の設置を挙げています。これについては既に動き出しており、12月より巴橋上流の西城川で社会実験として照明を設置しています。

実験期間にアンケート調査を実施し、その結果を実際の照明整備に反映いたします。

1月12日まで17:00～22:00の間点灯しています。一度ご覧いただきアンケート調査にもご協力ください。

